

## 凛々しく～附属小温故創新～

2018/1/24 No. 44

### 授業研究スタート～来年2月までのロングラン～

土曜日は授業参観そして三善会と参加していただきありがとうございました。OBの方々と話していると最初は懐かしい思い出話で始まるのですが、時間が過ぎるほどに熱くなっていくテーマがあります。それはやはり「授業」や「研究」についてです。先生方もたくさんの贈り物を先輩からいただいたことと思います。参加していただいた皆さん、何より今回OBと現役職員との間の調整でご苦労をかけた佐藤教頭先生、本当にお疲れ様でした。

さて、1月15日の遠藤宏紀先生の図工の部内授業を皮切りに社会科の全校授業そして佐山先生の音楽、昨日は今野ゆき先生の国語の部内授業と授業研究が続きました。全校授業はもちろん、3つの部内授業でも熱心に参加する先生方が多いので、とても嬉しく思っています。もちろん、教室を離れる心配はありますが、先生がいなくてもきちんと「自習」できるのが附属の子どもです。今週も授業研究が続きます、どうか「自習体制」をきちんと整えた上でたくさんの授業を参観できるようにしてください。

4つの授業を見せていただいて、改めて感心するのは子どものたちの学びに取り組む姿勢です。遠藤先生の1年3組は子どもたちに集中と開放ができていました。5年生はさすが三浦先生の学級、授業への集中力は素晴らしくと社会科で子どもたちが育っていることを感じました。また、単元の一番最後を取り上げたことにも提案性がありました。そして佐山先生の6年2組の音楽。私が今まで参観させていただいた音楽の授業で6年生の子どもをあそこまで夢中にさせることができる授業は見たことがありませんでした。佐山先生の高い指導力はもちろん、音楽部で大事にしている授業づくりの視点が機能しているからだと思いました。さらに昨日見せていただいた今野先生の国語の授業。5年3組の子どもたちが言葉にこだわって発言していた姿が印象的でした。国語部の提案の「比べ読み」も納得しました。ゆき先生の指導によることも大きいと思いますが、渡部先生の日頃の指導が行き届いている証拠だとも思います。

一方、授業を見せていただいて私なりに研究の進め方としていくつか課題が見えてきました。

1つは検証です。どの授業研究も研究としてのねらいを持って作られてきたはずですが、ですからその「ねらい」が達成されたかどうかは、子どもの姿として具体的に検証する必要があります。その意味では音楽部の視点3や国語部の視点1は教科部の主張が分かりやすく、検証をしっかりと行うとかなり説得力のある手立てになるのではないかと、思います。この点はぜひ、研究部を中心に検討して欲しいところです。

今週から給食週間。この日を楽しみにしていたのはきっと私だけではないはずです。1日目のタイ料理、本当に見事な内容の献立に感心しました。エスニック風味が効いていて大満足でした。裕子先生、そして給食室のみなさん、おいしい給食をいつもありがとうございます。

(文責：副校長 手代木)